

山田みやこの活動報告

令和6年2月18日(日)

講演会「教育機会確保法と新しい不登校支援COCOLOプランについて知ろう」に参加

講師 大野照子さん (文科省生徒指導室課長補佐)

会場 ライトキューブ宇都宮

小中学校の不登校の現状は29万9,000人。児童生徒1,000人あたり31.7人で過去最高。

- ・学校の内外で相談・指導を受けていない 38.2%
- ・不登校の原因としては、無気力・不安が51.8%

高校の不登校 65万575人 生徒1,000人あたり20.4人

議員立法(平成28年12月14日交布)の教育機会確保法の説明のあと、令和5年3月策定のCOCOLOプラン(誰ひとり取り残されない学びの保障)に向けた不登校対策について説明。

目指す姿は

- 1.不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える。
- 2.心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援する。
- 3.学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなの安心して学べる」場所にする。

クロストーク

～不登校支援の現場から～

・中村みちよさん(フリースペースつなぎ代表)

登校拒否・不登校を考える全国ネットワークを2018年立ち上げ、共同代表を務めている。

気仙沼市でフリースペースつなぎを運営。民間の力が必要。つなぎに通う子ども達の月5,000円の給食費は無料(公費負担)。不登校家庭への支援調査を行い親の生の声を聞き、文科省への要望書を提出するなど活動している。

・高実麻衣子さん

親の会「明るい不登校」を主催。

不登校の児童生徒は家にいることが多い。誰かにつながりたいと子どもが思うまで、目の前の子どもをじっくり親がくみ取ることが必要。親の会は大変重要。

・小川美穂さん(NPO法人ハロハロラボ代表理事)

不登校の子ども達がオンラインでつながることで居場所づくりをしている。子ども達が好きな事を好きな時に、多世代でつながり、学び、遊ぶ場。多種多様な業種の大人たちに、日常的につながることを目指している。

・土橋優平さん(NPO法人キーデザイン代表理事)

県内に2つのフリースクールをオープン。無料LINE相談窓口「お母さんのほけんしつ」を運営。県内のフリースクールなど支援機関を掲載するポータルサイト「たより」「不登校新聞」に記事を連載するなど啓発活動に取り組んでいる。学校以外の学びやつながりの機会を認めていない社会の空気がまだある。自分に合った学び、地域で子育て、「助けて」と言える環境が必要。

※不登校支援の現場の皆さんの熱意とエネルギーを実感。辛さを吐き出せる場所が必要。

誰一人取り残されない

学びの保障に向けた

不登校対策

C comfortable,
C customized and
O optimized
L locations of learning

COCOLOプラン

令和5年3月



文部科学省